



協定書を掲げる五百旗頭理事長(左)と西村町長

次世代に継承したいまちへ向けて

熊本県立大学と町が包括協定調印式

公立大学法人熊本県立大学と町は6月29日、「住み続けたいまち、次世代に継承したいまち」へ復興すべく、さまざまな分野において相互協力を図る、包括協定を結びました。

同大学の五百旗頭真理事長は、「益城町が復興するまで、熊本地震の傷は癒えないと思っています。地域に生きる大学として、これまで以上に寄り添い、ともに歩みながら復興へと向かいたいと思います」と意気込みを述べました。

安心な生活を送る手助けに

町婦人会が仮設住宅居住者にLEDライトを贈呈

仮設住宅の皆さんに、防災に心掛け安心な生活を送ってもらおうと、町婦人会(富田セツコ会長)が町内の仮設住宅全戸に小型LEDライトを贈りました。

これは、全国からの支援金をもとに県地域婦人会連絡協議会が県内の全仮設住宅に配布しているものです。

6月29日にライトを受け取ったテクノ仮設団地C地区自治会長の三井秀子さんは、「本当にありがたいです。小型で明るく、身近なところに置いておけるので、皆さん喜ばれると思います」と感謝しました。



ライトを手渡す町婦人会の富田会長(右)と田中悦子副会長(左)



厳しい日射しの中、作業を行う町建設業協会

雨が降っても安心な駐車場を

町建設業協会が社会貢献事業として不陸整正を実施

町建設業協会が社会貢献事業として、テクノ仮設団地駐車場の不陸整正を実施しました。

同仮設団地の駐車場は、降雨後の車の通行により著しく凹凸が発生するため、昨年度、町の予算で4回の不陸整正を行っています。

同協会によるもので初めてとなる7月14日は、炎天下の中、地道な作業により広大な駐車場の凹凸が解消されました。本年度は、引き続き同協会の社会貢献事業として計6回の実施が予定されています。

Pickup Plus
今月のプラス+

九州北部を襲った豪雨により、福岡県朝倉市や大分県日田市をはじめとして広い範囲で甚大な被害が出ました。これを受け、町からは2人の職員を被災地のひとつである福岡県朝倉市に先遣隊として派遣しました。町は、平成28年度に朝倉市から3人の職員の業務支援を受けています。

